

「釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会」

## 第5回 調査技術小委員会

資 料

平成14年12月6日

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会事務局

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会

第5回 調査技術小委員会

日時：平成14年12月6日（金）

現地視察 9：00～12：00

会 議 13：00～15：00

場所：現地視察 幌呂川地区～雪裡樋門湛水試験  
地～広里地区

会 議 釧路地方合同庁舎 5 F  
共用第1会議室

議 事 次 第

1．開 会

2．挨拶

3．議 事

1) 第4回調査技術小委員会、第7回検討委員会の議事概要について

2) 施策の展開について

3) 釧路湿原保全のための調査計画について

4) 釧路湿原周辺での調査内容について

5) 各小委員会での検討項目について

6) ミレニアムポールについて

4．討 議

5．今後の予定

6．その他

7．閉 会

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会  
調査技術小委員会 名簿

委 員

所 属	役 職	氏 名
北海道教育大学	名誉教授	岡崎 由夫
財団法人 北海道環境財団	理 事 長	辻井 達一
財団法人 山階鳥類研究所	研 究 員	百瀬 邦和
環境省自然環境局東北海道地区自然保護事務所	所 長	渡辺 綱男

(五十音順)

オブザーバー

所 属	役 職	氏 名
北海道立根釧農業試験場 草地環境科	科 長	三枝 俊哉
釧路国際ウェットランドセンター	主 幹	新庄 久志

## 小委員会について

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会では、専門的な立場から助言を得るために、以下の小委員会を開催している。

小委員会名	目的	委員・専門委員構成 (H14.11現在)	開催時期
(1)調査技術小委員会	調査計画等について、助言を得る。	[委員] 岡崎 由夫(地質) 辻井 達一(植物) 百瀬 邦和(鳥類) 渡辺 綱男(国立公園)	第1回 H12.1月31日 第2回 H12.10月25日 第3回 H13.1月23日 第4回 H14.2月27日
(2)湿原再生小委員会	湿原再生(雪裡樋門の湛水実験等)について自然環境の専門的立場から助言を得る。	[委員] 神田 房行(植物) 高山 末吉(両生類) 辻井 達一(植物) 中村 太士(森林環境保全) [専門委員] 新庄 久志(植物) 橋本 正雄(鳥類)	第1回 H12.1月19日 第2回 H12.7月10日 第3回 H12.10月17日 第4回 H12.12月21日 第5回 H13.12月17日 第6回 H14.2月22日 第7回 H14.10月1日
(3)旧川復元小委員会	旧川復元(茅沼地区等)について、河川工学、自然環境の専門的立場から助言を得る。	[委員] 内島 邦秀(河川) 神田 房行(植物) 清水 康行(河川) 中村 太士(森林環境保全) [専門委員] 針生 勤(魚類)	第1回 H12.2月1日 第2回 H12.10月19日 第3回 H12.12月19日 第4回 H14.2月28日 第5回 H14.11月8日
(4)土砂流入小委員会	流域の土砂管理、支川からの流入土砂対策等について助言を得る。	[委員] 内島 邦秀(河川) 清水 康行(河川) 中村 太士(森林環境保全)	第1回 H11.12月21日 第2回 H12.9月14日 第3回 H13.1月23日 第4回 H14.2月27日 第5回 H14.9月12日
(5)湿原利用小委員会	湿原の利用と保全・管理のあり方について助言を得る。	[委員] 岩淵 鉄男(カヌー) 串崎 英子(国際YOP°ミスタマカ) 熊谷 守晃(河川) 佐藤 吉人(観光) 杉沢 拓男(自然保護) 高山 末吉(両生類) 橋 利器(つり) 夏堀 勝治(観光) 西川 栄明(アウトドア) 百瀬 邦和(鳥類) 渡辺 綱男(国立公園) 渡部 清紀(自然教育)	準備会 H12.1月27日 第1回 H12.6月9日 第2回 H12.10月20日 第3回 H13.1月30日 第4回 H13.6月28日 第5回 H13.12月13日 第6回 H14.8月20日

## 第5回 調査技術小委員会

### 資料目次

1 . 第4回調査技術小委員会、第7回検討委員会の議事概要 .....	1
2 . 施策の展開について .....	3
3 . 釧路湿原保全のための調査計画について .....	6
4 . 釧路湿原周辺での調査内容について .....	8
4 - 1 ハンノキ林調査 .....	8
4 - 2 窒素・リン負荷量調査 .....	19
4 - 3 釧路湿原内地下水位調査 .....	29
4 - 4 自然環境情報図 .....	35
4 - 5 達古武地区自然再生 .....	39
4 - 6 湿原全域植生調査 .....	42
4 - 7 野生生物調査 .....	44
5 . 各小委員会での検討項目について .....	46
5 - 1 雪裡樋門湛水試験 .....	46
5 - 2 広里地区湿原再生 .....	49
5 - 3 幌呂川地区湿原再生 .....	58
5 - 4 旧川復元(茅沼地区)調査 .....	62
5 - 5 土砂流入防止対策検討 .....	66
6 . ミレニアムポールについて .....	70
参考資料 .....	71
温根内地区ハンノキ伐採試験 .....	71
ハンノキ林調査 .....	73
茅沼地区におけるハビタット評価種について .....	78

## 1. 第4回調査技術小委員会、第7回検討委員会の議事概要

釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会

### 第4回「調査技術小委員会」議事概要

日時：平成14年2月27日13:30～15:30

場所：釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室

#### (1)出席者

調査技術委員：新井委員、岡崎委員、辻井委員、百瀬委員

オブザーバー：甲田研究職員(根釧農試)

#### (2)議事概要

##### 【釧路湿原の共用データベース化について】

- 釧路湿原に関するデータや研究論文等のデータベース化を図ることは必要である。
- 今後新たな釧路湿原に関する研究論文等の文献資料の収集については、集約する場所や、収集した資料を整理して検索できるような体制づくりが必要である。
- 釧路湿原に関与している研究者リストを作成し、資料収集の協力を呼びかけてみてはどうか。
- 情報を一括管理するセンターが必要である。

##### 【平成13年度調査結果について】

- 旧川復元試験の評価を行う場合には、地域別にハビタット評価種を選定する必要がある。
- データ整理等の作業の効率化を図るためにも、地下水位観測所には一連の観測地点番号を付与すべきである。
- ハンノキに関しては、当小委員会で実施しているハンノキ調査結果と温根内で環境省が実施している調査結果を合わせて検討してはどうか。
- ミレニアムポールは、湿原の長期的な変化がわかればよい。

## 釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会

### 第7回 検討委員会 発言概要

日時：平成14年3月4日 13:30～15:30

場所：釧路地方合同庁舎5階共用第1会議室

#### (1)出席者

委員：新井委員、内島委員、岡崎委員、神田委員、清水委員、相馬委員、高山委員、辻井委員、百瀬委員

オブザーバー：

内田課長(釧路支庁地域政策部環境生活課)、佐藤係長(釧路教育局生涯学習課社会教育係)、川瀬係長(釧路土現治水課河川係)、藤田部長(釧路市環境部)、小野口課長(釧路町商工観光課)、小野寺室長(標茶町企画振興室)、本間課長(鶴居村産業課)、日野浦課長(鶴居村産業課)

#### (2)議事概要

##### 【土砂流入防止対策について】

- ・河川の土砂輸送量を把握するためにも、土砂の発生源を調査するべきである。
- ・排水路下流部に沈砂地を設置すれば、河川に流入する土砂量を軽減・抑制できると考えられるが、その効果を検証するために、モニタリングを行う必要がある。

##### 【茅沼地区における旧川復元試験について】

- ・茅沼地区の旧川復元直後は、周辺の生態系に影響があると思われるので、自然環境調査を継続的に行う必要がある。

##### 【湿原再生について】

- ・湿原の再生には長期間を要するため、施策の実施可能なところから行うべきである。

##### 【利用について】

- ・ゴミ、トイレ問題や釣り利用等が自然環境にどのような影響を与えているのかを調査するべきである。
- ・流域住民に湿原保全の必要性についてより一層の理解を深めてもらうために、環境教育等を行うべきである。

##### 【具体的な施策の実施について】

- ・今後の具体的な施策実施についても、地元の地権者や各関係機関と十分な協議を行う必要がある。
- ・広大な湿原すべてを保全するのではなく、保全を行うべきところを選定し、施策を実施するべきである。

## 2. 施策の展開について

### 【水環境の保全】

湿原の生態系と密接な関係を持つ河川水、地下水などの水環境の保全を図るべきである。

#### [具体的施策]

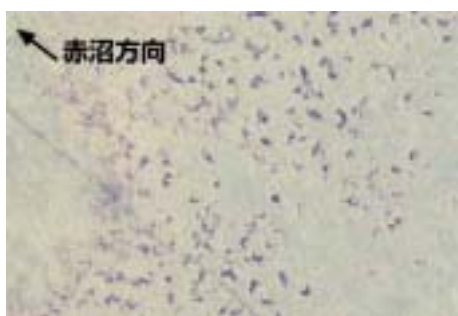
##### 河川水の保全

窒素の負荷量を指標として、約2割の削減を行うこととし、そのためには流域対策として緩衝帯、沈砂池を整備する。あわせて、個別対策として畜舎周辺における家畜ふん尿対策や施肥基準の遵守をはじめとする物質循環を考慮した営農を指導・支援・育成することが必要である。流域対策の具体化に当たっては、これらの有効性を検討するため久著呂川をモデル地区として実施する。個別対策については全流域で早急に対応を進める必要がある。

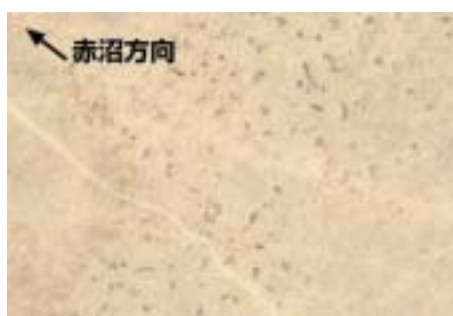
#### [具体的施策]

##### 地下水の保全

地下水位の状況を把握し、生態系との関連を検討する。その後、必要に応じて湿原にとって良好な地下水環境保全のための対策を行う。特に赤沼の水位変動や釧路川左右岸堤防周辺の水位変動については十分検討を行う。



1977年



1997年

赤沼付近の池塘の変化状況

窒素収支の継続的な検証のために久著呂川をモデルとして、栄養塩類の挙動状況を確認するため、調査・検証を行い、各地区において対策を講じる。

表2-1 当面の検討項目

具体的施策	地区名	内容
河川水の保全	久著呂川地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>土砂調整地(帯)、水辺林、河道の安定化対策による負荷削減</li> <li>久著呂川の窒素収支の検討</li> </ul>
地下水の保全	釧路湿原全域	<ul style="list-style-type: none"> <li>湿原内の地下水位の実態を把握し、細部に渡るデータを蓄積する。</li> </ul>

注：久著呂川地区土砂流入防止対策のモデル地区と同じ。





**【野生生物の生息・生育環境の保全】**

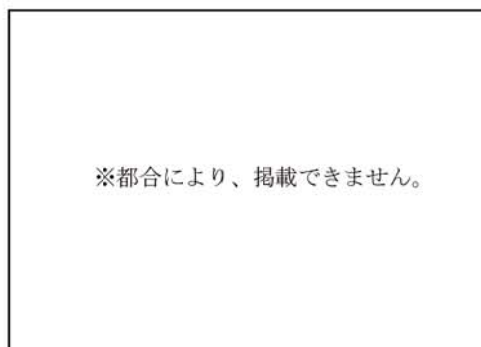
タンチョウやキタサンショウウオ、イトウ、カブスゲ群落（ヤチボウズ）などの釧路湿原特有の動植物の生息・生育環境を把握し、その保全を図るべきである。

**[具体的施策]**

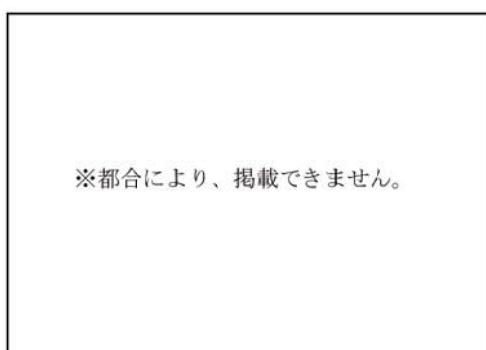
野生生物の生息・生育環境を保全するためには、生物の生息環境の情報が必要である。ここでは、釧路湿原特有の生物であるタンチョウやキタサンショウウオ、イトウ、カブスゲ群落（ヤチボウズ）などを指標として、生息環境を把握し、湿原の保全を図ることとする。あわせて、これらのデータを広く市民、関係機関が共有する仕組みを作る必要がある。



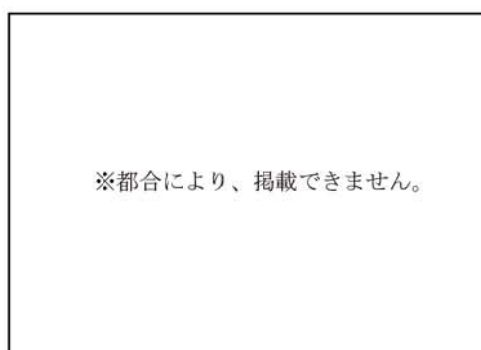
タンチョウ



キタサンショウウオ



イトウ



ヤチボウズ

表2-2 当面の検討項目

検 討 項 目	内 容
●野生生物生息生育環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンチョウの営巣環境の整備(ヨシ原整備)</li> <li>・タンチョウのねぐら環境の整備(不凍水路整備)</li> <li>・キタサンショウウオの生息地の整備(池沼等整備)など</li> </ul>
●自然環境情報図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存地図情報のGISデータ化</li> <li>・時系列データの作成など</li> </ul>